

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画 国語

小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	補充・発展的指導計画
1年	「話すこと・聞くこと」の学習では、身近なことや経験したことの理由を話すことはできる。一方、話し手が知らせたい事柄を落とさないように聞くことには、課題がある。 「書くこと」の学習では、経験したことについて、「～は、～です。どうしてか」という文章を書けるようになってきている。長音や拗音、促音、助詞等を正しく使うことなどの言語事項には、課題がある。 「読むこと」の学習では、拾い読みになる児童がいる。	- 姿勢や口形、声の大きさや速さを意識して話すことができるように、繰り返し指導する。 - 聞き手の聞く姿勢を確認してから、話すように指導する。 - 聴写など、集中して聞く活動を設定する。 - 視写や文を書くときに机間指導などを通して正しく表記できるように指導する。 - 語や文のまとまりが意識できるように、文章に印を付ける。 - 繰り返し、音読に取り組ませる。	- ソーシャルディスタンスに留意しつつ、ペア、小グループ、全体など段階的に話す場面を設定する。 - 音読や漢字練習を家庭学習として継続して取り組ませ、定着を図る。
2年	- 適切な声の大きさで話すことや、順序立てて話すことが難しい。 - 内容の聞き取りが正確でない児童がいる。 - 簡単な文章は書くことができるが、助詞の使い方が不正確な児童や、順序よく書くことが苦手な児童がいる。 「読むこと」については意欲的に取り組み、家庭でも繰り返し練習している。一方で、内容を十分に理解できていない児童がいる。 - かたかなの表記や漢字の定着が不十分である。	- めあてをはっきりさせてから話したり、聞いたりし、みんなで認め合う指導を行う。 - はじめ、中、終わりを意識させる指導の工夫を行う。 - 文章や言葉の意味を考えながら丁寧に読むことを意識させる。 - 視写をしたり、文を書いたりする中で繰り返し指導していく。	- 発表のための準備を考えさせる。 - 大事なことを落とさないで聞くために、メモの取り方を指導する。 - 作文の学習で身に付けた書き表し方を、他教科での書く活動に生かす。
3年	- 相手や目的に応じて、調べたことを話すことはできるが、筋道を立てて話すことは難しい。 - 話の中心に気を付けて聞くことができる。 - 自分のしたこと、見たこと、思ったことをそれぞれに分け、段落ごとに読み手に分かりやすく、正確に書くことが不十分である。 - 内容の読み取りは概ねできるが、段落の中心記述部分を落とさず読み取れる児童は少ない。 - 学習した漢字、助詞、接続詞を文中で正しく使えない児童がいる。 - 毛筆書写について、正しい姿勢、用具の使い方、筆の持ち方などについて理解しているが、正しい姿勢を保ち、腕を大きく使って書ける児童は少ない。	- 筋道を立てて話すことができるよう、話す内容をワークシートにまとめ、構成させる。 - 相手の話を正確に聞くために、話の中心を意識させて教師や友達の話を聞かせる。 - 表現したり、理解したりするために必要な文字や語句を、辞書を活用して理解させる。 - 文章全体の大まかな内容を捉えさせ、課題に応じた初発の感想をもたせる。文章の構成に基づいて段落ごとの内容をワークシート等で捉えさせる。 - 文章の構成表を作り「はじめ、中、終わり」に分けた作文の書き方に慣れさせる。 - 姿勢や毛筆用具の準備、片付け、筆の使い方について毎時間確認する。	- 読書旬間、図書の時間や朝の時間などを使い、読書に親しめるようにする。 - 日常的に言語環境を整える。 - 漢字に興味をもって学習できるように、書き順の確認や言葉集めをして定着を図る。 - 家庭学習として音読に取り組ませ、学習内容の理解を深めさせる。 - 休み時間や放課後の時間を使って、個に応じた指導を行う。 - 点画の組み合わせ、全体の字形が分かるように資料を掲示し、一つ一つの点画の理解を促す。

4 年	・既習の漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。 ・様子や気持ち等を表す語句が不足している。 ・話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもちながら聞いたり、話の中心が明確になるように話したり、話題に沿って話し合ったりする力は不十分である。 ・書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、書き表すことが難しい児童が多い。 ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることが難しい児童がいる。	・辞書の活用や言葉集め、短文作りなど、言葉に興味をもつことができる活動を取り入れることで定着を図る。 ・相手意識、目的意識を明確にし、児童の話したい、聞きたい、話合いたいという主体的な態度を育てる。 ・文例を提示したり、ワークシートを工夫したりして、書くことの指導をする。 ・物語全体を見通して、複数の叙述を基に考えられるように丁寧に読み取っていく。また、ワークシートなどを活用し、叙述に基づいた読み取りが確実にできるように指導する。	・漢字の練習を毎日宿題にし、漢字の小テストを單元ごとに実施して、漢字の定着を図る。 ・音読発表会や作品紹介の会を開いて、相手を意識した発表をする。 ・書くことの学習で身に付けた力を活かす活動を他教科や領域で設定する。
5 年	・相手意識をもって話したり、話を聞いたりすることが難しい児童が多い。 ・書く活動では、個人差が大きく、個別指導が必要である。 ・叙述を正確に読み取ることが難しい児童がいる。 ・言語の知識・理解についての習得は、個人差が大きい。	・話合いの方法や聞き手にとって分かりやすい発表の仕方について、具体的にどのようにすべきかを示していく。 ・書く活動では、ワークシートなどを複数用意し、児童の実態に合わせて選べるようにする。 ・全体で文章の構成や要旨等、確認しながら学習を進める。 ・既習した漢字を平仮名で書いている場合には、適宜書き直しをさせ、漢字を使うことの抵抗感をなくしていく。 ・語彙を増やす活動を日常的に行う。	・他教科の学習でも、形態を工夫して話合いや発表する場面を設定するなど、聞き手を意識した学習展開にしていく。 ・漢字や言語に関する課題プリント等を用意し、できなかった問題は反復練習をさせることで、言語事項の確実な定着を図る。 ・日常的に読書活動を行い、言葉を豊かにしていく。
6 年	・相手の立場を考えて話したり、相手の話を集中して聞いたりすることが苦手である。 ・問題の意図を理解し、必要な情報を適切に取り出すことを苦手としている児童が多い。 ・言語の知識・理解についての習得は、個人差が大きい。	・目的や意図に応じ、伝えたいことを的確に話し、話し手の意図をつかみながら聞くようにさせる。 ・文章だけでなく、表やグラフの見方・考え方をより丁寧に指導し、与えられた情報を活用して問題を解決する指導を丁寧に行っていく。 ・新聞や副教材を利用し、言語の意味や文章の構成についての知識・理解を深める。	・単元の内容によって、グループ内や全体の場で発表する機会を設ける。 ・表やグラフの見方・考え方の指導を国語だけでなく、算数や社会など、各教科に横断して指導を行っていく。 ・漢字や言語に関するドリルや課題プリントを用意し、できなかった問題は反復練習をさせることで、言語事項の確実な定着を図る。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

社会

小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	補充・発展的指導計画
3年	・学習問題を解決するために、必要な情報を読み取ったり、分かったことを表現したりすることに個人差がある。 ・練馬区の地形や交通などについて、知識の定着に個人差がある。 ・見学活動が制限される中、意欲を高め、理解を深めることが難しい。	・問題意識を高める導入を行い、主体的に取り組む態度を育む。資料の読み取り方や記録の仕方などの技能について丁寧に指導する。 ・基本的な知識が定着するよう、短時間の復習を繰り返し行う。 ・視覚に訴える資料提示を行い、関心を高める。ゲストティーチャーを招き、理解を深める。	・ソーシャルディスタンスに留意しつつ、ペアやグループでの短時間の学び合いを取り入れ、児童の関心の継続や、よい学び方やまとめ方の周知を図る。 ・地域の生産・販売や、安全を守る取り組みを自主的に調べるよう促す。
4年	・知識・理解の定着が十分でない。 ・社会事象に対する関心のもち方に個人差が見られる。	・ICTの活用や出前授業を行うなどして理解を深めていく。 ・毎日の生活に目を向け、日常の生活体験と関連付けながら学習を進めていく。	・総合との合科学習として、学んだことを新聞や模造紙等にまとめ発表することで定着を目指す。 ・身の回りのことや自分の興味があること等、身近な内容について調べ学習ができるようにする。
5年	・問題を解決するために必要な資料や情報を、的確に取捨選択する力の個人差が大きい。 ・社会的事象が自分に関わりのあるものと捉え、自主的に調べたり、考えたりする態度が身に付いていない児童がいる。	・問題解決に必要な情報を考えてから、情報収集に取り組ませる。キーワードに着目して、資料を読み取ることを繰り返す。 ・実物資料や新聞資料など、教科書以外の資料も適宜提示して、社会とのつながりを実感させていく。家庭での聞き取りや調査を促し、自主的な学習態度を称賛していく。	・一単位時間に使用する資料を吟味して提示し、一つ一つの資料を丁寧に読み取ることができるようにする。机間指導を適宜行い、個別に声をかけ理解を深められるようにする。 ・資料集や教科書、図書資料、インターネットなどから必要な情報を取捨選択し、活用する力を身に付けさせる。 ・時事問題を取り上げ、未来を考える学習を行う。
6年	・問題の意図を理解し、適切な情報を取り出すことを苦手としている児童が多い。 ・資料から具体的な事実を読み取り、自分の考えをもちながら適切に判断し、考察する力が不十分である。 ・児童個々がもっている知識量の差が大きい。	・キーワードに着目して、資料を読み取ることを繰り返す。 ・児童が問題意識をもって取り組めるよう、導入を工夫したり、予想を立てる場面の時間を多くとったりする。 ・社会的事象のもつ、価値や意味に関心をもたせ、知識を活用して考える活動を取り入れていく。	・自力解決や学び合いの時間を確保して、情報収集に対する意欲と自信を高めていく。自分の課題に沿って調べ学習を行う中で、表やグラフの見方を指導していく。 ・表やグラフの見方・考え方の指導を社会だけでなく、国語や算数など、教科を横断して指導を行っていく。 ・日本の歴史だけでなく、外国の歴史についても興味をもてるようにする。現代の政治と過去の政治を比較しながら歴史学習を深めていく。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

算数

小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	補充・発展的指導計画
1年	・100までの数の理解や、たし算・ひき算の計算処理は定着している。 ・量の大きさや長さ、図形についての理解はおおむね定着している。 ・時刻に関心をもち、時計を正確に読めるようになってきている。	・数と計算領域ではブロック操作を十分にを行い、図形や測定の場面では、具体物に多く触れさせる。 ・実際に活動する場面を増やし、友達の意見なども聞きながら理解を深めていく。 ・プリント、ドリルで繰り返し練習させることにより、学習内容の定着を図る。	・指やブロックなど具体物を使わなくても、念頭操作で計算ができるように、繰り返し演習し、身に付けさせる。
2年	・計算（繰り上がり、繰り下がりのあるたし算・ひき算の筆算）は理解できているが、演算決定については課題が残る。 ・時刻と時間、長さについての理解に個人差がある。 ・千までの数の表記、大小については定着が不十分な児童がいる。	・基礎的な知識・技能は、プリントやドリルを繰り返し学習させ、定着を図る。 ・時刻と時間、長さは、日常生活の中で意識的に使い、繰り返し指導をしていく。 ・児童が体験を通して、楽しく問題解決できる算数的活動内容を考え、習熟を図っていく。	・習熟度別に教材を工夫し、指導を充実させる。 ・補充問題を用意し、反復練習に取り組ませる。 ・小グループでの活動を取り入れることで理解をより深め、定着させる。
3年	・除法の計算処理はおおむね定着しているが、場面の違いに気付かず除法の立式をしたり、わり切れない場合の等分除の計算の違いに混乱したりすることが多い。 ・測定領域では、上位単位を用いた長さの表し方や時間の加法計算で、課題が残る児童が見られる。	・基礎的な知識・技能は繰り返し学習させ、確実な定着を図る。 ・演算決定について、問題を見比べたり、図や具体物を操作したりしてイメージを持たせる。 ・日常生活で必要とされる事象、場面との関連を図り、算数的活動を取り入れた学習を工夫する。	・計算練習を中心にドリル学習を実施し、個別指導も取り入れながら習熟を図る。 ・測定領域においては、学習内容に応じて、作業的・体験的活動を取り入れる。 ・補充コースでは、学習内容の復習を授業前半で計画的に行う。
4年	・3位数÷1位数（商に空位を含む）、3位数÷2位数のわり算の筆算では誤答が多い。 ・図形「角の大きさ」「垂直・平行と四辺形」では、180°より大きい角や平行四辺形やひし形の作図で課題の残る児童が見られる。	・習熟に課題の残る児童には、既習内容の復習を授業内で継続的に行う。仮商修正の仕方などを習熟度に応じて丁寧に指導する。 ・児童一人一人が用具の操作を適切に行えるよう、使用法を指導する。	・ドリル、プリントを活用し、反復練習に取り組ませる。 ・コンパスや分度器の使い方、測定の仕方、作図方法など、繰り返し個別指導を行う。
5年	・小数の除法で余りの小数点の位置の理解や小数の倍について、「基準量を1とみたとき、比較量はいくつにあたるか」の理解に課題がある ・自分の考え方を線分図や式に表し、説明することに課題が見られる。	・数量の関係に着目して、テープ図や数直線の図を用いて式を立てさせる。 ・習熟度に応じた問題を用意したり、自分の考えをまとめたり説明したりする経験を多くさせる。	・ドリル、プリントを活用し、習熟を高める。 ・発展コースでは、多様な考え方や解決方法が出るよう、問題提示の工夫を行う。 ・補充コースでは、整数で考えたり、条件を絞ったりして分かりやすい問題提示を行う。
6年	・基準量、比較量が分数の場合の倍の求め方について数直線の図から立式することに課題がある。 ・演算決定について、図や数直線を用いて、根拠を明らかにして説明することに課題がある。	・分数の大小関係を通分したり、小数に置き換えてとりえ、2本の数直線に書き表す。 ・自分の考えを文字を使った式や図などを用いて発表する活動を多く取り入れる。	・児童の実態・コースに応じて、「図や数直線に表す」「作問する」など、個々に合った課題を設定し、意欲的に取り組める教材と時間を設定する。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

理科

小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	補充・発展的指導計画
3年	・事象を比較したり、違いを見付けたりしながら考える力には課題がある。 ・観察したことや実験したことを、整理してまとめる力には、個人差がある。	・意欲的に学習に取り組めるよう、問題提示の仕方や導入の仕方を工夫する。 ・一つの事象だけでなく、同じような事柄を見付けたり、関係付けたりできるよう、教材の充実を図る。 ・他教科との関連を加味しながら、まとめ方や発表の仕方について習熟を図る。	・児童の興味や関心を高めたり、広めたりするよう教科書以外の事象についても触れる。 ・内容に応じて発表会を開き、他の児童のまとめ方や発表の仕方を見て学んだり、発表したりして互いに評価し合うようにする。 ・必要に応じてデジタル教材などを提示し、視覚的に分かりやすい支援を行う。
4年	・実験には興味をもって意欲的に取り組むが、結果から分かったことをまとめたり、考察したりすることは不十分である。 ・調べたことや自分の考えをまとめたり、発表したりする力には個人差がある。	・他教科との関連を図りながら、まとめ方や発表の仕方についての習熟を図る。 ・基本的なことを身に付けさせた上で、おもちゃ作りなど児童が興味をもち、楽しんで取り組める要素も取り入れて、科学的な思考を高められる教材の工夫や計画の改善を図る。	・内容に応じて発表会を開き、他の児童のまとめ方や発表の仕方を見て学んだり、発表したりして互いに評価し合うようにする。 ・デジタル教材を活用して理解を深める。
5年	・事象から問題を見だし、主体的に問題解決を行うことが不十分である。 ・実験は興味をもって行うが、その結果をまとめたり、分析したりすることに課題がある。	・児童が興味・関心をもつ事象を提示し、その比較などから、問題を見いだすことができるようにする。 ・観察・実験を行う前に、どのような結果になるか見通しをもたせる。 ・結果から考察する場面における処理方法の指導をより丁寧に行う。	・実生活に関わる事象提示を行えるように教材の工夫をする。 ・仮説を立てて実験したり、結果をまとめたりさせる。 ・結果（事実）と考察・まとめ（考え）を区別できるように指導する。 ・問題に対して、結果からどのようなことが分かるのかを考えることができるように指導する。 ・学んだことを実生活に活用したり、もの作りにつなげたりできる場を設定する。
6年	・実験は興味をもって行うが、出た結果を吟味し、自分の考えへと高めていく力が不十分である。 ・観察・実験の結果から分かったことを相手に伝えることを苦手としている児童が多い。	・考察のまとめ方を示し、文章だけでなく、絵や図、グラフ等も使いながら効果的にまとめるよう助言する。 ・結果から考えられることや推論できることを基に、学級全体で考える場を設ける。	・一人一人が考察した内容について学級全体や小グループで協議する時間を確保し、考察する力を付けさせる。 ・デジタル教材やメディアを活用し、既習した内容が日常生活の中でも多く役立っていることを理解させる。

学年	課題分析（学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	補充・発展的指導計画
1年	・アサガオの栽培に関して、興味・関心をもち、水やりや観察等、積極的に取り組んでいる。しかし、自然や環境に対する視野は狭く、思考力は不十分である。 ・気づきや分かったことを絵や文で表現する力に個人差が見られる。	・体験活動を多く取り入れ、関心を高めていく。 ・思ったことや感じたことをカードに書き、他の児童と共有する時間を確保する。	・自分なりの意見を持ち、一人一人の思考力を養うために、意見を共有する時間を多く設け、新たな気づきへ繋げていく。
2年	・興味や関心をもち、積極的に取り組んでいるが、自ら発見、探究したりしながら問題に取り組む姿勢に課題が見られる。 ・自然のものの特徴をつかんだり、違いに気付いたりする力に個人差が見られる。	・思ったことや分かったことから、自分なりの視点に着目させ、問題意識をもたせる。 ・まとめ方を工夫し、学習の成果とすることができたかを確認する。	・活動や体験による気づき、自分なりの考えをもつというプロセスを繰り返す時間と場を設定する。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

音楽

小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	補充・発展的指導計画
1年	- 音楽を楽しみ、身体を動かして表現したりすることができるが、リズムに合わない児童もいる。 - 鍵盤ハーモニカ（現在はポータブルキーボードを使用）の演奏技術は個人差が大きく、個別指導が必要である。	- 拍に合わせて歩く、歌に合わせてリズムを打つなどの活動を多く取り入れる。 - キーボードで簡単な曲を演奏するときに、個々の児童の実態に合った課題を用意し、苦手な児童も演奏の楽しさを味わわせられるようにする。	- 音楽のもっている楽しさに気づき、味わって聴けるようにする。 - リズム表現の場を多く設定し、拍の感覚を養う。
2年	- 身体全体で音楽を感じ取り、のびのびと表現することが苦手な児童もいる。 - 鍵盤ハーモニカ（現在はポータブルキーボードを使用）の演奏技術は、個人差が大きい。	- 音楽に合わせて歩いたり、リズム打ちをしたりし、身体全体で音楽を楽しめるようにする。 - ドレミ体操やハンドサインなどで音の高さをつかませる。 - 鍵盤ハーモニカが苦手な児童は、スモールステップで取り組ませ、その都度評価する。	- 音をよく聴くことを意識させながら、表現する活動に取り組む。 - 技能面で難しい児童も、楽しく音楽と関わることを大切にし、温かな声掛けをすることで苦手意識をもたせないようにする。
3年	- 拍感や旋律のまとまりを感じ取ったり、拍の流れに乗って表現したりすることが難しい児童がいる。 - リコーダーの基本的奏法において個人差が大きい。	- 拍の流れを感じながらリズムリレーや旋律づくりをする。拍歩きをするなど、身体で表現できるようにする。 - CDの模範演奏を聴かせることで、そのよさを取り入れる。	- リコーダーは、クラス音楽の時間に音楽室に5人程度来てもらい、ソーシャルディスタンスをとりながら、演奏する。 - 課題によっては全員同じ規準ではなく、その子なりの上達を認めることで意欲を高める。
4年	- 音符や休符の名前や長さ、音階、拍子などを理解していない児童がいる。 - 互いに認め合いながら表現することに個人差がある。	- 常時活動として音符や休符の長さやドレミの読み方を学習し、理解を深める。 - 友達の演奏を聴き合う場面を設定し、そのよさに気付くようにする。	友達の発表を聴くことで、よい面に気づき、それを自分の演奏に生かすようにする。
5年	曲にふさわしい表現を考え、思いや意図をもって音楽表現を工夫する能力に個人差がある。	- 音楽の要素や仕組みを手掛かりとして、常に考えながら主体的に音楽表現する。 - 互いに音を聴き合ったり、アドバイスし合ったりしてよりよい音楽表現を目指す。	- 学習形態を工夫しながら、友達のよさを認め合う場を取り入れる。 - 音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みから楽曲のよさや美しさを感じ取らせる。
6年	自分の思いを表現に生かし、音楽のよさや美しさを感じ取り、みんなで音楽をつくりあげる楽しさや達成感を味わうことが不十分な面がある。	リレー奏や友達の発表を聴く活動を積極的に取り入れ、互いに音を聴き合ったり、よさを認め合ったりする場を多く設定する。	- 思いや意図に沿った表現を工夫する活動を通して音楽を形づくっている要素の働きを音で共有し、共感し合うことができるように取り組む。 - 共有した思いが聴いている人にも伝わるように表現を工夫する。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

図画工作

小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析 (学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等)	授業改善案	補充・発展的指導計画
1年	- 興味をもって楽しく取り組む児童が多い。 - 意欲はあるが、自分の作りたいものを思うように表現できない児童もいる。 - 絵の具、画用紙、粘土等、いろいろな素材の使い方に慣れていない。	- 造形遊びを通して、体全体の感覚や技術を高めるようにする。 - 絵の具・はさみ・のりなどを扱う経験を積むことで表現の幅が広がるように、計画的に取り組んでいく。	- 作品に興味をもち、その楽しさを味わうようにする。 - 手だての必要な児童への支援を考える。 - 個々の児童がそれぞれの良さを認め合えるようにする。
2年	- 様々な単元において、興味をもち、想像力を膨らませながら楽しく取り組む児童が多い。 - 自分のイメージと作業工程が一致しなかったり、表現するために必要な技術が伴わなかったりして思い通りに表現できない児童がいる。	- 素材の幅を広げていき、創作する経験を積み、思い通りの作品を仕上げるができるように指導する。 - 絵の具や粘土など、様々な素材に触れることができるようにする。	- 創作する楽しさを味わうことができる題材を選ぶ。 - 手だての必要な児童には個別に指導する。 - 作品の完成度が高まるように声掛けする。
3年	- どの題材についても興味をもち、意欲的に活動できる。様々な工具・用具に触れる機会を設け、表現の幅を広げていく必要がある。 - 道具や材料の使い方が十分習得できておらず、表現したいものが作れない児童がいる。	- 用具の扱いにも慣れ、材料体験を積みながら児童が主体的に取り組める題材を設定したり、環境設定を工夫したりしていく。 - 道具等の使用方法を丁寧に指導することで、技能面の向上を図る。	- 手だての必要な児童への支援を考える。 - 作品の完成度を高められるよう、声かけ、支援を続けていく。 - 自分の工夫したところや見てほしいところを説明できるよう、ワークシートなど用意する。
4年	- 自分なりの感覚で色や形を選び表現している児童が多く見られる。一方、意欲はあるものの、技術が十分でない児童もいる。 - 工具や用具の使い方を習得し、安全に使いこなす必要がある。	- 友達同士で作品を見あったり、良いところを見つけ合ったりし、更なる意欲付けを行う。 - 木工や金工などの題材を加え、工具などの用具の扱い方に慣れ、図画工作に関心を深められるように取り組んでいく。	- 手だての必要な児童へ積極的に支援をする。児童同士が互いに理解し、良さを認められる機会を設けていく。 - 教師の作品や見本などの具体物を提示し、見通しをもたせる。
5年	- ほとんどの児童が意欲的に取り組もうとしている。自分らしい表現をするための用具の扱い方や技法、方法が十分でない。 - 丁寧に仕上げようと取り組む児童がいる一方、各工程が雑になる児童も見受けられる。	- 様々な表現方法を考えさせながら、自分が表したいことを自信をもって表現できるように支援していく。 - 褒めたり、励ましたりしながら意欲付けを行う。各工程の進め方や注意点を丁寧に指導する。	- 担任と情報交換を密に行い、児童の良さや頑張りを全体で認める場を作る。 - 児童同士がそれぞれの良さを認め、互いに高められる場を設定する。 - 発展的な技法を紹介し、意欲を向上させる。
6年	- いろいろな技法を試し、自分の表現したい思いにあったものを見付けようと取り組む姿勢が見られる。 - 創作する際、作品の出来にこだわりすぎ、自分の思いを表現しきれない児童がいる。	- 題材のねらいを精選して、意欲をもたせられる導入を工夫する。 - 道具の使い方や表現技法などを十分に試す時間を確保し、それらが定着した上で、自分なりの工夫ができるようにする。	- 意欲をもって学習活動に取り組める環境をつくる。担任と協力しながら、自分の力を発揮できる学習にする。 - 失敗を恐れず取り組めるようダイナミックな題材を設定し、作る楽しさを感じさせる。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

体育

小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析 (学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等)	授業改善案	補充・発展的指導計画
1年	・集団行動を意識した行動が少しずつできるようになっている。 ・運動経験の差が大きい。	・集団で取り組むゲームや遊びを多く取り入れていく。 ・ルールを守ることの大切さを理解させる。 ・健康や安全に留意して運動できるように、日頃から指導していく。	・認め合い、励まし合える場面を多く設定する。
2年	・集団行動を意識した行動が徐々にではあるが、とれるようになってきている。 ・体力テストの実態調査では、運動時間が十分でない児童が多く、運動経験の差を感じる。	・集団で取り組むゲームや遊びを取り入れ、ルールを守ることの大切さを考え実践させる。 ・一人一人できることから少し上のめあてをもたせ、粘り強く取り組ませることにより、成功体験を増やしていく。	・認め合いあえるような場面を設定していく。 ・グループ内で作戦を考える場面を増やす。
3年	・どの運動も意欲的に取り組めるが、鉄棒やマット運動などは苦手意識をもっている児童がいる。	・練習しないと身に付かない運動が3年から始まることに留意する。 ・鉄棒やマットなど技能の習得が必要な運動では取り組みやすいように補助したり、習得のコツを具体的に指導したりする。	・鉄棒等で、(エバー) マットを敷いて、安心感を与え、取り組みやすいようにする。
4年	・どの運動も意欲的に取り組む児童が多いが、運動によって苦手意識をもっている児童がいる。 ・友達と協力し、楽しく運動することができるが、勝敗にこだわり過ぎる児童がいる。	・学習カードや資料を工夫し、練習の方法を分かりやすく知らせたり、段階的に技を身に付けさせたりする。 ・互いに言葉掛けをする際の、賞賛や励ましのワードを教え、実践につなげる。	・基礎的な技から発展的な技につなげる場を設定していく。 ・体育の時間だけでなく、休み時間などを使い、運動量を増やすようにする。
5年	・いろいろな運動に意欲的に取り組むが、器械運動など、運動によって苦手意識をもっている児童が多い。 ・勝敗にこだわり過ぎる児童がいる。	・段階的に技を身に付けられるように、学習計画を立案する。 ・学習のねらいを明確に児童に提示し、意欲的に取り組んだり、技能の習得を意識したりすることで、勝敗以外の価値観を高められるようにする。	・自分に合った練習の場を選ぶように、工夫した場の設定をする。 ・技のポイントを明示し、少人数でアドバイスし合えるようにする。 ・チームやグループで認め合い、励まし合える場を設定する。
6年	・運動に対してはおおむね意欲的に取り組む児童が多い。 ・自分が得意と感じていない運動になると、意欲的に取り組まない児童がいる。	・協力して学習に取り組むことの良さ、効果について指導していく。 ・運動することの心地よさや、運動に取り組もうという意欲がもてるように学習計画を立案したり、教材の工夫をしたりする。	・学習カードやICT機器、グループ学習を効果的に用いて、課題解決を図るよう取り組ませる。

学年	課題分析（学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	補充・発展的指導計画
5年	・裁縫などの実技には大変意欲的に取り組んでいるが、手先の器用さや生活経験などによる差があり、時間がかかることが多い。	・I C Tを活用して相互に教え合ったり、得意な児童が助言したりするなど、指導を工夫して行う。 ・実習内容によっては、担任等が授業に参加し、個別に支援を行う。	・裁縫が得意な児童については、工夫した作品作りなどの発展的な指導を行う。
6年	・裁縫や調理には大変意欲的に取り組む。技能面では個人差が大きく、定着が不十分な児童もいる。実生活の中での経験不足が大きな要因であると思われる。	・I C T機器を活用して、やり方を分かりやすく提示する。得意な児童が助言するなど、個々の技能を高める時間を設定する。 ・実習内容によっては、担任や地域ボランティア等が授業に参加し、個別に支援を行う。	・技能が不十分な児童には、個別に指導・助言を積極的に行う。技能面が優秀な児童については、発展的な指導を行う。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画 外国語活動 小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	補充・発展的指導計画
3年	- 英語の言い方を覚えられず、友達とコミュニケーションをとることに消極的な児童がいる。 - 歌やゲームなどの活動に積極的に取り組もうとする児童は多いが、なかなか取り組もうとしない児童がいる。	- 体・音声・表情などによる表現活動を十分に取り入れる。同じ活動を繰り返すことで、安心感を高める。 - 簡単なゲームやロールプレイなどを取り入れ、楽しみながら活動できるようにする。子供同士での活動を多くすることで、意欲を高めるとともに、学びの定着・活用を図る。	- 世界の国々の遊びや行事など、異文化に気付くような内容を盛り込んだ活動を取り入れる。 - 声を出さなくても活動できる作業的活動を取り入れて、英語活動に対する関心を高める。 （例）色塗り・ゲームの点数化など
4年	- 英語の言い方をなかなか覚えられず友達とコミュニケーションをとることにやや消極的な児童がいる。 - 歌やゲームなどの活動に積極的に取り組む児童とそうでない児童に差がある。	- 体・音声・表情などによる表現活動を十分に取り入れる。 - 簡単なゲームやロールプレイなどを取り入れ、楽しみながら活動できるようにする。 - 簡単な英語を聞いて作業するような活動を取り入れる。	- 世界の国々の遊びや行事など、異文化に気付くような内容を盛り込んだ活動を取り入れる。 - 聞いて作業ができることを重視した英語活動を行う。 （例）色塗り・ゲームの点数化など
5年	- 英語で友達とコミュニケーションをとることにやや消極的な児童がいる。 - アルファベット大文字小や文字の区別が、十分でない児童がいる。	- チャンツ表現を繰り返し練習し、自分のことをすすんで伝えられるような活動を取り入れる。また、異文化に気付くような内容を盛り込んだ活動を取り入れる。 - 毎時間ワークシートを用いて「書く」活動を取り入れる。また、ALTの発音を聞いて書くことにも慣れる。	- 既習のチャンツ表現を用いて、自分や友達のことを、簡単なやり取りで伝える活動を行う。 - 単語を書き写す活動を通して、アルファベットの定着を目指す。
6年	- 英語で友達とゲームに取り組むことに意欲的な児童がいる。 - 英語で友達とコミュニケーションをとったりすることを恥ずかしがる児童がいる。 - アルファベット大文字小や文字の区別が、十分でない児童がいる。	- 身近な歌やゲームだけでなく、児童が「聞きたい・伝えたい」思うような活動を取り入れる。また、異文化に気付くような内容を盛り込んだ活動を取り入れる。 - 英語での指示を聞いて作業をするような活動を取り入れる。 - 毎時間ワークシートを用いて「書く」活動を取り入れる。	- 知的好奇心を刺激する。 （例）世界の時差と時刻・距離の計測 地球儀から見える世界など - 自分や友達のことを伝える活動を行う。 - 単語や短文を書き写す活動を通して、アルファベットや英文のきまりの定着を目指す。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

道徳

小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	補充・発展的指導計画
1年	1学期は、文字を書くことが難しい児童もいるため、発言による振り返りが多かった。 「楽しい」「よかった」など、一言で発言が終わってしまう児童が多く、具体的に自分の考えを表現できる児童が少ない。	- 分かりやすいワークシートや発問を用意する。 - 全員が気軽に意見を言えるような授業の雰囲気作りをし、話合いの場面を多く設定する。 - 話合いに慣れるようにたくさんの機会を設定する。	- 人前で恥ずかしがらずに話せるように、スピーチなどの機会を取り入れる。 - 他教科でも、自分の意見をきちんと表現できるように発表する機会を多くとる。 - 上手な発表の仕方を取り上げたり、実際に見せたりする。
2年	- 意欲的に取り組む児童が多いが、自分の考えをもつことが苦手な児童もいる。 - 自分事として考えたり発言したりする児童が限られている。 - 語彙が少なく、考えをもっている、それをうまく表現できずにいる児童が見られる。 - 授業中の発言が一部の児童に限られており、全体での話合いを深めることが難しい。	- 教材提示を工夫し、児童が意欲をもって取り組めるようにする。 - 思考の流れに沿った発問の仕方を工夫し、児童が考えやすいようにする。 - 分かりやすいワークシートを用意し、自己の振り返りができるようにする。 - 少人数での話合いの場面を設定する。	- 自分の考えがなかなか出ない児童には個別に声を掛け、その考えを受け止める。 - 他教科でも、自分の考えを表現する機会を多く作り、抵抗感なく発言できるように慣れさせる。 - 話合い活動では、話合い方の基本を提示し、スムーズに意見が出るように工夫する。
3年	- 登場人物の心情や考えを問う学習では、授業の中で発言する児童が限られている。 - 自己の振り返りの時間には、教材を通して自分の体験を重ね、考えることが必要であるが、どんなことを書いたらよいか思いつかないと感じている児童がおり、振り返りがしにくい場合がある。	- 教材提示や場面絵の提示を工夫し、児童が考えやすい発問をする。 - 挙手していない児童も意図的に指名する。 - 授業前にアンケートを取ったり、導入で価値に触れる発問をしたりしておき、一人一人が振り返りがしやすいようにしておく。	- 授業の中で、自分の考えを発言させる機会を多く取り入れる。 「つなげよう」にある内容を考えさせたり、本を読み聞かせたりする。 - 他教科の授業でも同様の価値について考えさせ、価値についての理解を深める。
4年	- 教材文を読み、多くの児童が考えているが、自分事として表現したり、発言したりすることができる児童に偏りがある。 - 自分の考えをもつときや自分を振り返るときに発言することはできる。 - ワークシートに書けない子がいたり、書くことはできるがなかなか発言につながらない子がいたりする。	- 教材提示の仕方を工夫し、児童が考えやすい発問をする。 - 机間指導をし、挙手していない児童も意図的に指名する機会を増やす。 - 発言しにくい児童には、少人数での話合いで出された意見や自分が書いたことを発表させるなど、発言しやすい授業形態を工夫する。	- 机間指導をし、自分の考えに自信をもたせ、発言できるようにする。 - 学習した内容項目について、教育活動全体で位置付けられるよう、意図的に各教科などの指導に関連付けて取り入れていく。 - 他教科、領域でも話合いの場面を取り入れ、共感的に友達の意見を聞く態度を育てる。

5 年	・授業の中で発言する児童に限られ、積極的に意見を発表できない児童が多い。 ・道徳ノートへの記述はするが、自分の意見に固執しすぎるあまり、友達の発表を聞いたり、そこから視野を広げたりすることが難しい。	・積極的に意見を発言できない児童のために、小グループでの話し合い活動を多く取り入れる。 ・児童が自分たちの考えを出し合い、相違点や類似点に気付くことができるよう、切り返しの発問を工夫する。	・教材文を主体的に読むことができるよう、展開前段において価値項目を意識した考えをもたせる。 ・登場人物の気持ちを追う活動では、ねらいに合わせ、その人物の立場になって考えさせる。 ・他教科の授業でも自分の意見と他者の意見との相違点や類似点に気付くことができるよう、発問の精選や展開の方法を工夫していく。
6 年	・積極的に意見を発表できない児童がいるなど、発言をする児童に偏りが見られる。 ・広い視野から多面的、多角的に考えることができるよう、小グループでの話し合い活動を取り入れてきたが、自分の考えを伝え合うだけで、話し合いが深まらない。	・積極的に意見を発言できない児童のために、小グループでの話し合い活動を多く取り入れる。 ・児童が自分たちの考えを出し合う中で、更に考えが深まるような展開の授業をしていく。 ・発問と発問のつながりの声かけや、切り返しの発問等をどのように組み立てるか、児童の思考の流れに沿った発問を考えていく。	・小グループでの話し合いの際には、児童同士で質問をし合うなどの工夫を行い、様々な考えが交流できるようにする。 ・登場人物の考えを自分事として捉えさせる場面では、資料の背景を整理し、多面的・多角的に考えさせる。 ・他教科の授業でも児童の思いをいかに引き出すかを考え、発問の精選や展開の方法を工夫していく。